

京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～

京都市総務局国際化推進室 西 智也

1 はじめに

平成20年12月、京都市では、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な、世界の中でも光り輝く国際都市を目指して、「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」を策定した。このプランは、近年の国際化を取り巻く環境の変化に適切に対応しながら、京都市でこれまで推し進めてきた国際化を一層推進するため、今後10年間の目標や取り組むべき具体的施策などをまとめたものである。

2 これまでの京都市の国際化の取組

千年以上の長きにわたり日本の中心であった京都市は、歴史と伝統を大切に継承するとともに、朝鮮半島や中国などのアジアの国々をはじめ世界中から学問、芸術、技術等が集まり、多様な文化が共生してきた。そのような流れにあって京都市は、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」※¹を行い、その実現のため、平成9年に策定した京都市国際化推進大綱や、平成13年に策定した京都市基本計画に基づき、京都市の国際化を推進してきた。

3 国際化を巡る情勢と新たなプランの策定

しかしこの10年間で、①グローバル化の一層の進展や、②温暖化や酸性雨など地球規模での問題の深刻化、あるいは③外交の重要な一翼を担うものとしての自治体活動の重要性の増大や、④新たに市内に居住する外国人の増加など、京都市の国際化を取り巻く環境に大きな変化が見られるようになった。

このような状況をふまえ、京都市は、学識経験者、行政、市民公募委員からなる策定委員会を設置して検討を行い、併せて、「京都市内学校・民間団体姉妹都市提携等アンケート調査」※²や「京都市外国籍市民意識・実態調査」※³の実施、また京都市外国籍市民施策懇話会※⁴やパブリック・コメントからの意見を参考にしながら、同委員会で最終案として取りまとめ、プランとして策定した。

4 プランの基本的な考え方と目標

プランでは、「市民や来訪者がより心豊かに暮らせる社会の実現」、「世界の中

※¹ 世界文化自由都市宣言：昭和53年10月15日、京都市がめざす都市の理想を市会の賛同を得て宣言。「全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由に集い、自由な文化交流を行う都市」、また、それを通じて「優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」を都市の理想像として掲げている。

※² 京都市内学校・民間団体姉妹都市提携等アンケート調査：平成19年6月から同年7月にかけて、京都市内の小・中・高校、大学・短期大学をはじめ、商工会議所などの経済団体、ライオンズクラブなどの社会奉仕・福祉団体を対象に、海外の同種の団体との姉妹提携の状況を調査し集計したもの。

※³ 京都市外国籍市民意識・実態調査：平成19年6月から同年7月にかけて、本プランの策定をはじめ、今後の外国籍市民に係る施策を検討するに当たっての参考とするため、本市に在住する外国籍市民の実態とその抱える問題について把握することを目的に実施したアンケート調査。

※⁴ 京都市外国籍市民施策懇話会：平成9年策定の京都市国際化推進大綱に基づき、京都市における外国籍市民の市政への参加を推進し、共に生きる社会を構築するため、外国籍市民に関する諸問題について調査・審議し、京都市が取り組むべき課題等について意見を求める機関として設置したもの。

の京都としての発展」、「平和で持続可能な世界の実現に向けた貢献」という3つの基本的な考え方に基づき、次の3つの目標を掲げている。

(1) 目標1「世界がときめくまち・京都」

京都の歴史的なまち並みや伝統的な文化・芸術と先進的な学術研究や産業を兼ね備えた新旧両面を持つ都市としての魅力、環境に優しい文化を持つ都市としての魅力によって観光客や留学生をはじめ世界中の人々をひきよせる京都の魅力の向上と発信に努め、更なる魅力を生み出すまちを目指す。

(2) 目標2「世界とつながるまち・京都」

姉妹都市^{※5}をはじめとする世界の都市と市民主体の国際交流・国際協力の推進を図り、市民レベルの交流が定着し、活発に行われるまちを目指すとともに、世界の自治体の中でも先進的に国際交流・協力を行う役割を果たすまちであり続けることを目指す。

(3) 目標3「多文化が息づくまち・京都」

外国籍の人だけでなく、日本国籍を取得した人を含め、外国にルーツをもつ全ての人々が暮らしやすいまちを目指す。またそれにとどまらず、あらゆる市民がより豊かな生活を送れるよう、市民が存分に知識や能力を生かして地域社会で活躍できるまちづくりの推進に努める。

5 京都市国際化推進プランの主な取組

では具体的にプランの内容について、その一端を紹介する。

(1) 目標1「世界がときめくまち・京都」で掲げた施策では、①歴史都市・京都の創生や、環境先進都市としての魅力の向上と発信、留学生や研究者の集うまちづくりの推進といった京都が持つ多彩な魅力の向上と発信、②人・メディアによる情報発信など多様な形での情報発信の強化、③京都を学ぶ機会の提供や市民の「もてなしの心」の向上など、京都の魅力を認識し、世界に発信する人づくり、④案内表示や観光情報等の多言語化の推進など国内外の外国人が分かりやすく、活動しやすい施設・機能の整備に取り組むこととしている。

(2) また、目標2「世界とつながるまち・京都」においては、①姉妹都市交流の充実と多様化や姉妹都市間における国際協力の推進など、国際交流・協力の中核としての姉妹都市交流等の持続的な発展、②歴史都市としての国際交流・協力の推進や環境先進都市としての国際交流・協力の推進など、京都の特性を生かした多様な国際交流・協力の推進、③姉妹校提携など学校間交流の推進といった青少年交流の促進、④市民が国際理解を深める機会の提供や学校における国際理解教育・語学教育等の推進といった国際感覚を持った人づくり（地球市民意識の高揚）に取り組むこととしている。

(3) そして、目標3「多文化が息づくまち・京都」では、現在京都市に暮らす100を超える国々の4万1千人以上の外国籍の人などに対して、以下の多様な

^{※5} 姉妹都市：京都市は、パリ（フランス共和国）、ボストン（アメリカ合衆国）、ケルン（ドイツ連邦共和国）、フィレンツェ（イタリア共和国）、キエフ（ウクライナ）、西安（中華人民共和国）、グアダハラ（メキシコ合衆国）、ザグレブ（クロアチア共和国）、プラハ（チェコ共和国）の9都市と姉妹都市交流を行っている。

施策を掲げている。

ア コミュニケーション支援

新規転入者に対する情報提供の充実や、行政情報・生活情報の多言語化といった情報提供・相談事業の充実、そして日本語及び日本社会に関する学習の支援に取り組むこととしている。

イ 生活支援

日本語指導と学力向上支援の充実や、自国の文化や言語を学ぶ教育に対する支援といった教育・子育て支援の充実、高齢者や障害のある外国籍市民に対する福祉の充実や医療情報の積極的な提供といった福祉・保健・医療の充実、防災に係る情報提供の充実や災害時の支援体制の強化といった防災対策の充実、市民との交流の機会や就学生等に対する支援の充実といった留学生や就学生等に対する支援の充実に取り組むこととしている。

ウ 多文化共生の地域づくり

外国籍市民が活躍できる機会の提供や、地域での交流機会の促進など、社会参画の促進や、あらゆる分野での差別の撤廃、学校における多文化共生を推進する教育の充実など、多文化を尊重する意識啓発・人づくりに取り組む。

6 プランの着実な推進に向けて

プランの最終章においては、市民や民間団体との協働、大学・企業・国や京都府等との連携、京都市国際交流会館における事業の充実、京都市の庁内体制の強化、プランの進行管理のための外部の有識者による評価機関の設置など、多角的な側面からプランの推進に取り組むこととしている。

今後とも、魅力にあふれ多文化が息づく都市・京都の実現に向け、プランの各施策の着実な実施と3つの目標の実現に努めていきたい。

○ 京都市・パリ市姉妹都市盟約締結50周年記念事業について

平成20年10月15日から同年12月14日までフランス共和国パリ市立プチパレ美術館において、京都市・パリ市姉妹都市盟約締結50周年・日仏交流150周年記念「相國寺・金閣・銀閣名宝展 ―京都における禅と美術―」を、京都市・相國寺承天閣美術館・(財)京都国際文化交流財団とパリ市・プチパレ美術館の5者共催により開催した。

日本の伝統文化の源流である禅文化が開花した北山文化・東山文化を中心に相國寺、金閣・鹿苑寺、銀閣・慈照寺に所蔵されている無学祖元の国宝、円山応挙、雪舟等楊や伊藤若冲の重要文化財を含む美術品79作品、101点を展示した。

海外初公開となる多数の芸術作品を紹介する本展覧会においては、総入場者数は42,772人にのぼり、日本人の生活や美意識に深い影響を与え、かつ外国の方々にも親しみやすいといわれる「禅文化」・「禅芸術」をパリ市民にも肌で感じていただけたのではないかと考える。ひとえに相國寺承天閣美術館や(財)京都国際文化交流財団の皆様の御尽力の賜物であり、これをきっかけとして両都市間の交流や文化理解のより一層の進展を望むものである。

また、パリ市からはこれまでの文化交流に加え、経済、環境分野等についても交流していきたいとの意向があった。京都市国際化推進プランにも沿う内容であり喜ばしいことであった。時を同じくして京都商工会議所がパリ商工会議所と姉妹提携 20 周年を記念して協定書の更新を行い若手職員の交流等を掲げた追加条項を追加されたことは特筆すべきことである。今後とも、京都市国際化推進プランに掲げたように姉妹都市交流の充実と多様化に向け取り組んでいくものである。



伊藤若冲の釈迦三尊像を見学する門川大作京都市長（プチパレ美術館）